



正しいアルコール綿の使い方、消毒方法について

アルコールは、一番多く使用する消毒薬です。

芽胞以外の微生物に有効で、一般細菌を10秒間で殺滅できるなど、短時間で効力を発現し、速やかに乾燥し残留しない消毒薬です。しかし、よく使用する消毒薬が正しく使えているか、振り返ってみてください。注射や採血などの際の消毒に使用しますが、一度使用したアルコール綿をまた使ったり、消毒する際に、中心から外側に消毒ができていなかったりしていませんか？注射、採血の際は、1回目を汚染の除去を目的に、2回目は消毒を目的として内側から外側に向かって消毒します。また、袋から出すときに消毒する面に触れないようにし、消毒する面と指で持つ面は区別して扱い、同じ面を何回も使用しないことが必要です。点滴の側管からの注射時のアクセス面の消毒方法ですが、アルコール綿でさっと消毒している場面を見かけます。アクセス面の消毒方法は、アルコール綿でさっと拭くだけではなく、汚染を落とすために、ごしごしこするようなイメージで消毒することが推奨されています。一度消毒した面は、消毒効果が低下しており、何度も同じ面で拭くことにより、汚染を受け、さらに汚染を広げる可能性がありますので、同一面で何度もこすらず一方向に消毒する（1～2回以上が目安）事が必要です。一度、自分のアルコール綿での消毒の方法を見直してみてください。



中心から外側に向かって消毒する！

有明地域感染症疑似症患者搬送訓練を実施しました

12月13日有明保健所と合同で感染症疑似症患者搬送訓練を実施しました。海外渡航歴のある、咳や下痢、発熱などの症状がある患者を、保健所職員がソフトアイソレーターで搬送し、感染症病床に入院、検査などを行うまでの訓練でした。今まで行っていた訓練は「MERS 疑いの患者を搬送します」など、疾患名が決まっていたが、今回は、保健所長のシナリオで、海外渡航歴、曝露歴、症状などから感染症を推定することが必要でした。患者は、サウジアラビア、インドネシア、フィリピンなど多くの国を訪れており、鶏肉工場への訪問や生野菜の摂取など、感染源との曝露機会が多くある内容であり、推定される感染症は多数ありました。まず、保健所からの電話で疑っている感染症を確認したところ、鳥インフルエンザ、MERS との情報であったため、それに従い行動しました。しかし、患者は入院二日目に意識レベルが低下し血小板減少、肺水腫をきたし ARDS となるシナリオでした。最終的な患者の診断名は「**熱帯熱マラリア**」でした。熱帯熱マラリアは、マラリア原虫をもったハマダラカに刺されることで感染する病気です。12日間ほどの潜伏期間において、発熱、寒気、頭痛、嘔吐、関節痛、筋肉痛などの症状が出ます。患者の種々の情報を収集・整理して感染症を推定する難しさを改めて感じました。今後、熊本でスポーツの国際大会が開催されたり、改正出入国管理法が成立したため、海外の方が来られる機会が増えます。国内ではあまり見かけられないような感染症に感染している患者が来院し**第二種感染症指定医療機関**としての役目が増えてくるかもしれません。



ソフトアイソレーターに入った患者を搬送